

ケアラー支援のためのオンラインセミナー 第4回

家族の介護役割を担う子どもたちへの支援とは
— 養護教諭の立場から —

養護教諭のヤングケアラーの認識と
対応の実態調査から

四国大学 西岡 かおり

香川大学 辻 京子

背景・目的

ヤングケアラーの存在がマスメディアによって取り上げられ、社会的に認識されるようになった。お手伝いをよくする子どもやきょうだい思いの優しい子どもとして認識され、年齢にあわない介護や家事を担っているのが見過ごされてきた。また、子ども自身も自らの状況を発信することが難しく発見されにくい。

学校においては、不登校の背景にヤングケアラーの存在が認識されるようになり、学校の役割が求められるようになってきた。

学校の中で養護教諭は、子ども達の心身の健康の支援（ケア）と教育の両面から関わることができる唯一の教員である。

そこで、小学校養護教諭のヤングケアラーの把握や支援の実態について明らかにする。

研究方法

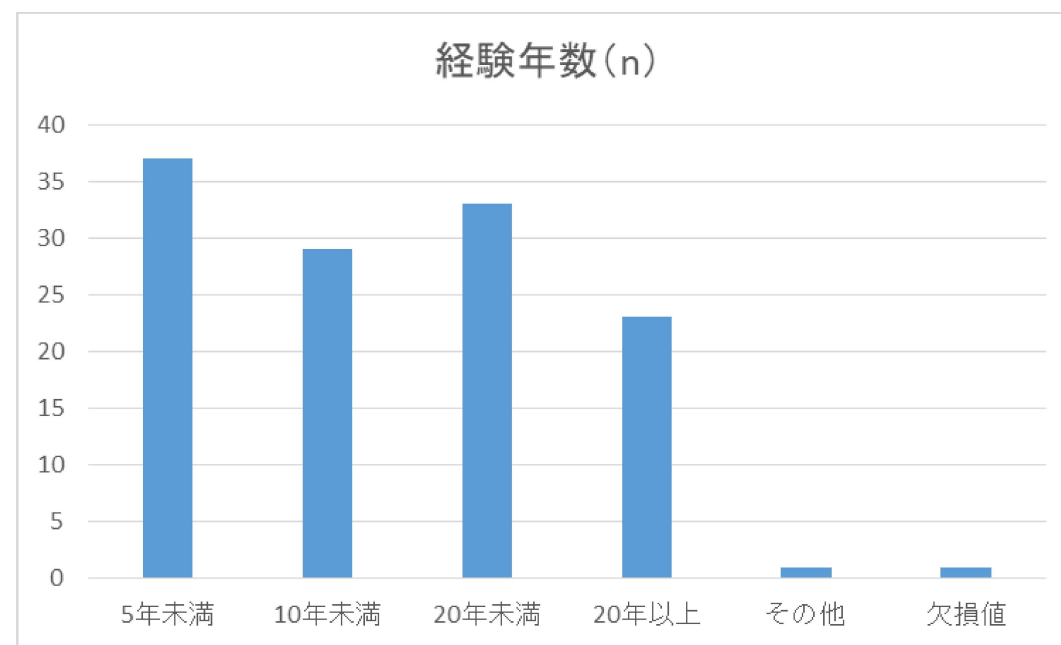
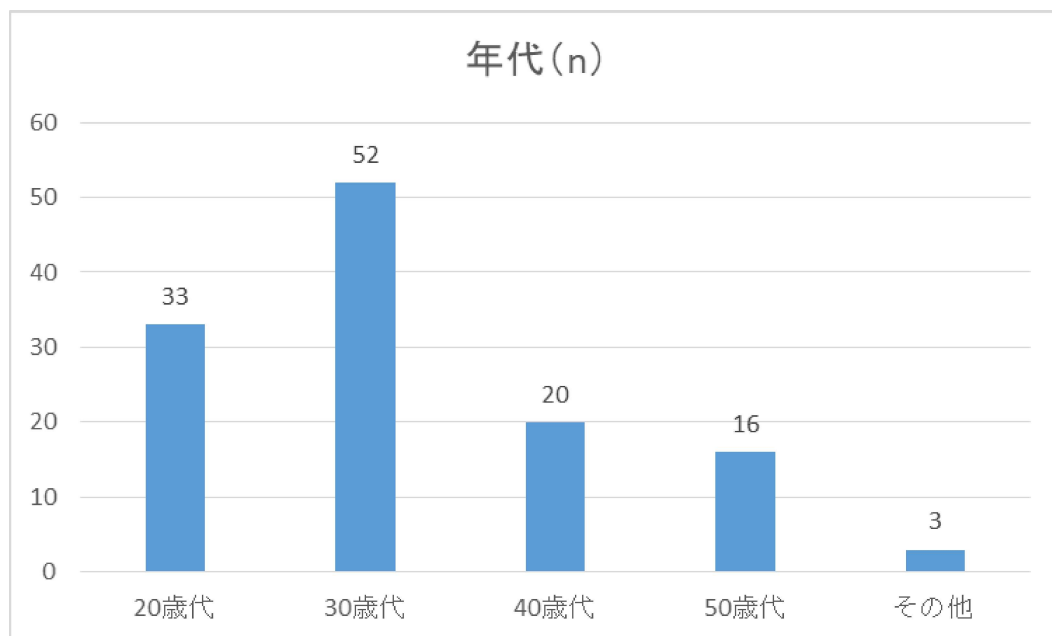
1. 対象：中四国5県の公立小学校に勤務する養護教諭
2. 方法：WEBによるアンケート調査
3. 実施期間：2022年3月15日～31日
4. 調査内容：
 - ①基本属性
 - ②ヤングケアラーの把握や支援の工夫
 - ③ヤングケアラーの把握や支援の困難
5. 分析方法：自由記載の内容をヤングケアラーの把握や支援の工夫点や困難点の視点で整理し、類似する内容をまとめ、カテゴリ化した。

倫理的配慮

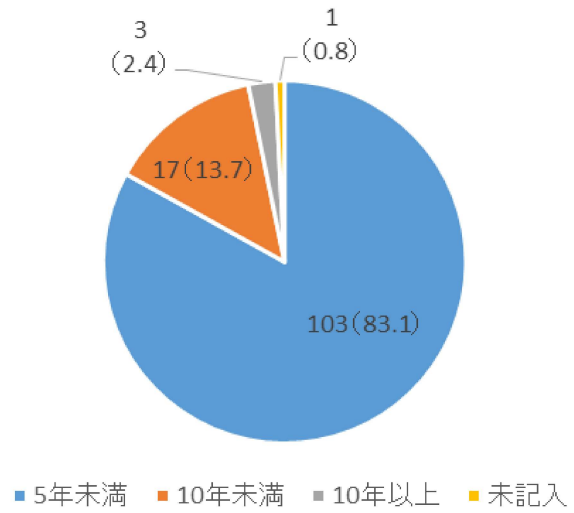
A大学医学部倫理委員会の承認（2019-273）を得て実施した。
データは、個人が特定されないようにID化し分析した。

結果1：基本属性

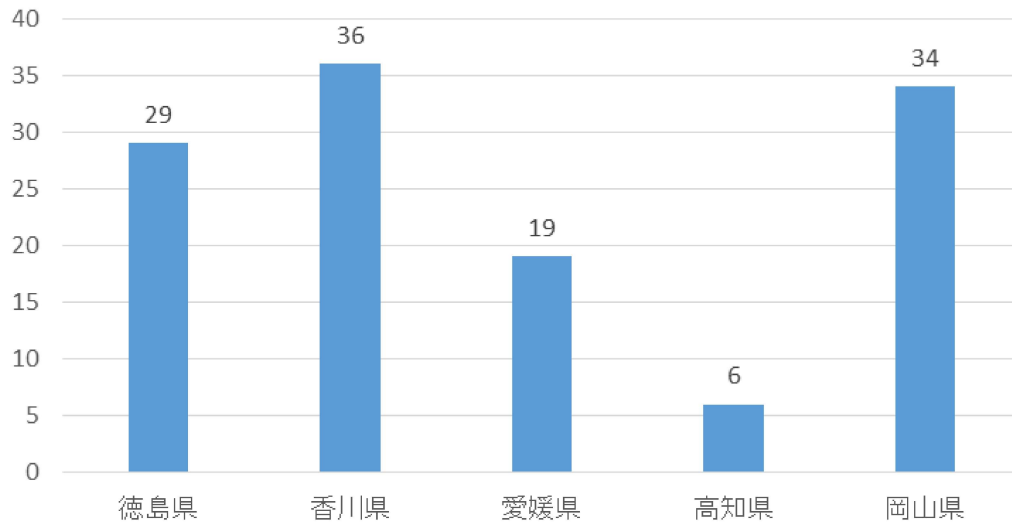
回答数 124件/1,124件（回収率11.0%）



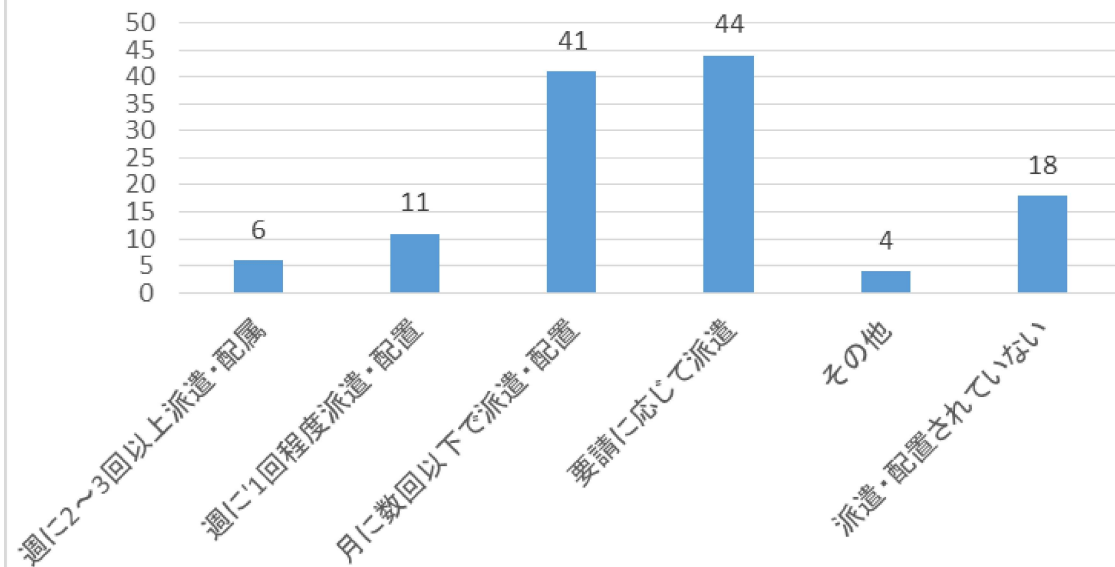
現任校での勤務年数



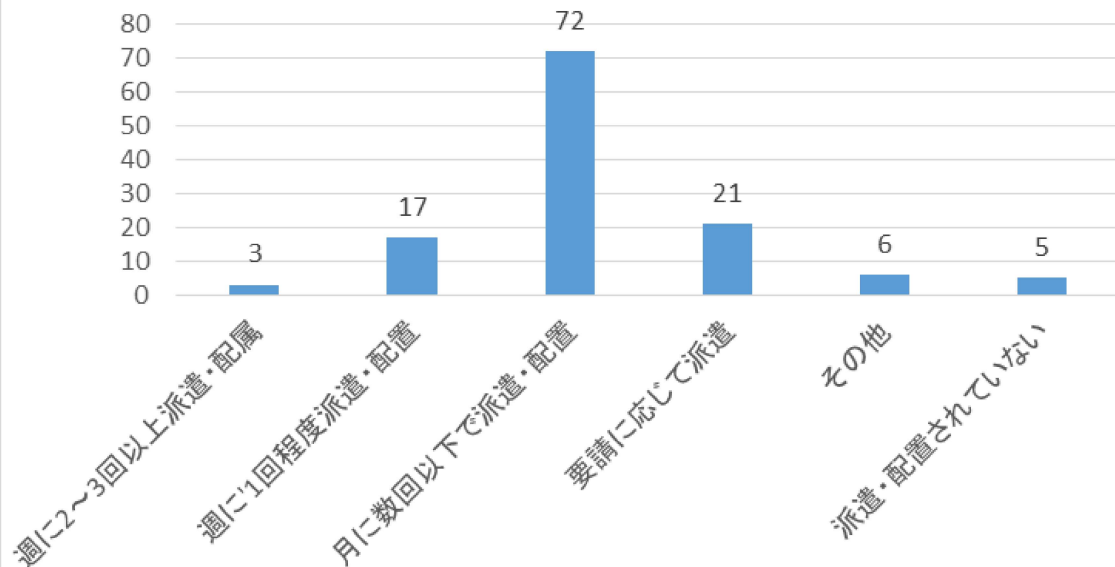
学校の所在地(n)



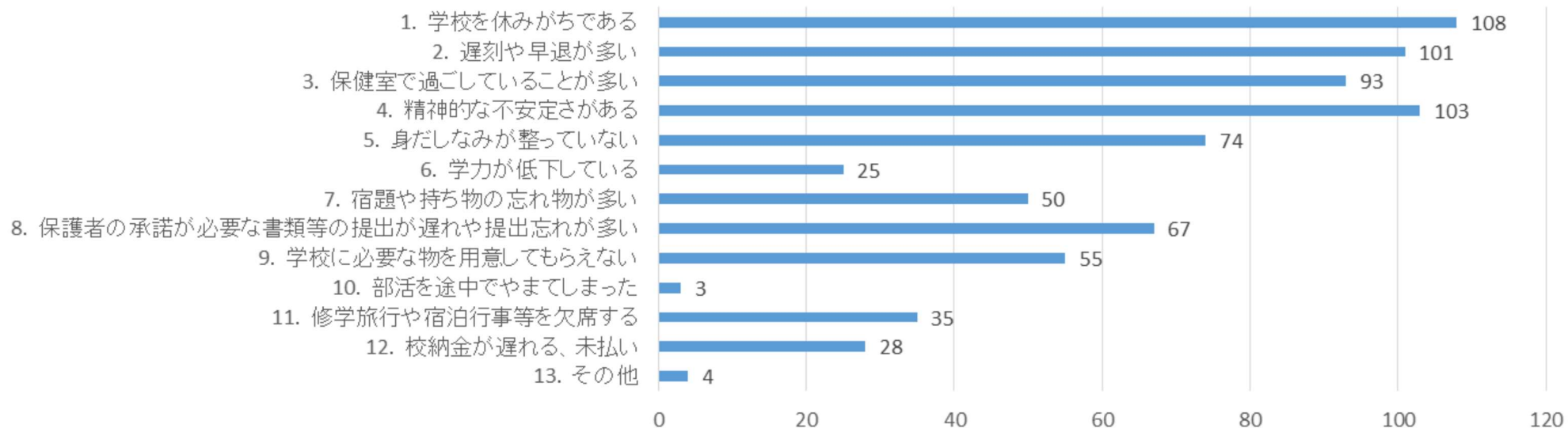
SSWの派遣・配置(n)



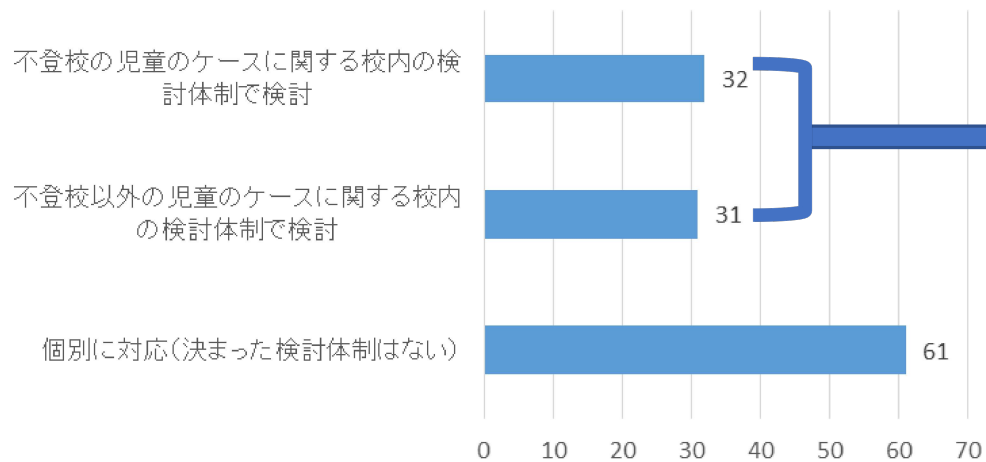
SCの派遣・配置(n)



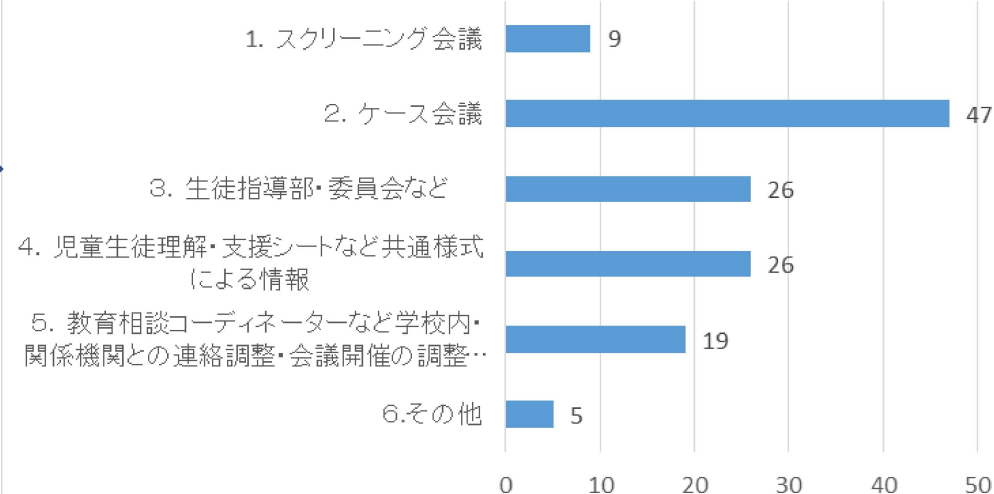
学級担任と共有しているケース(n)*複数回答



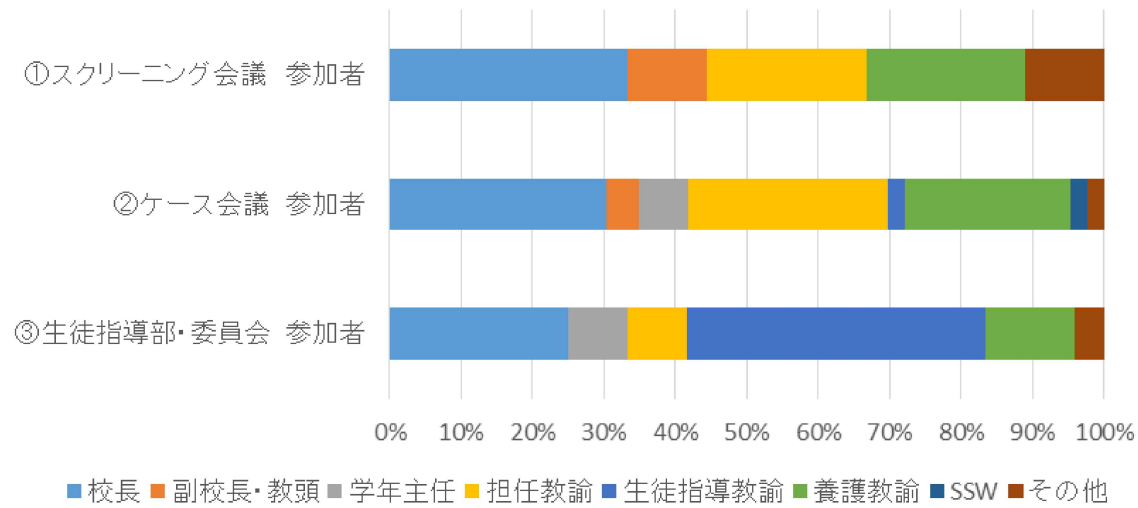
ケースについてどのような体制で情報共有・対応の検討を行ったか(n)



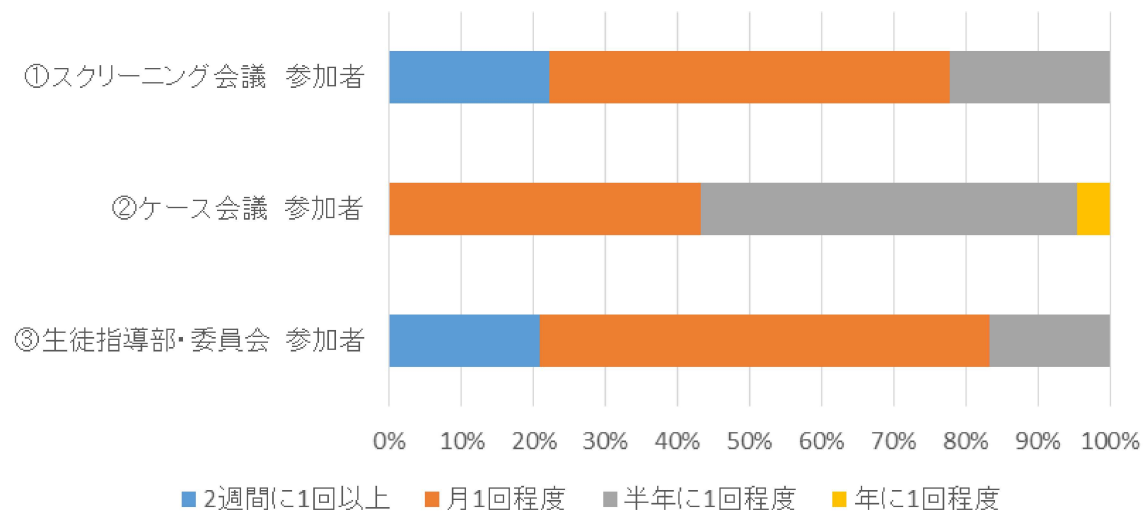
どのような校内体制で検討しているか(n)*複数回答



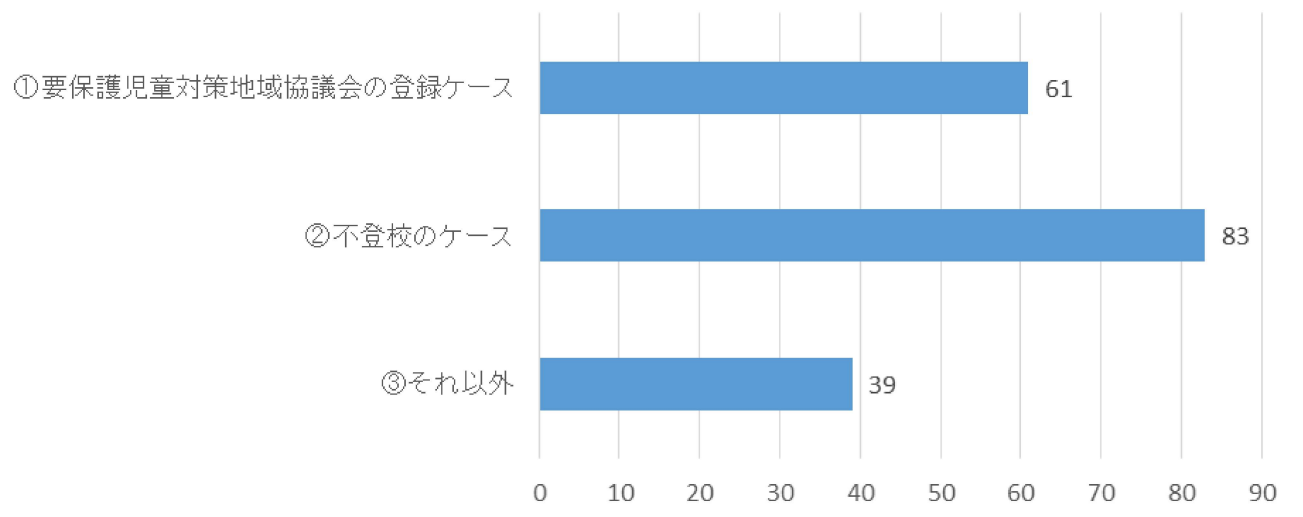
会議等のメンバー



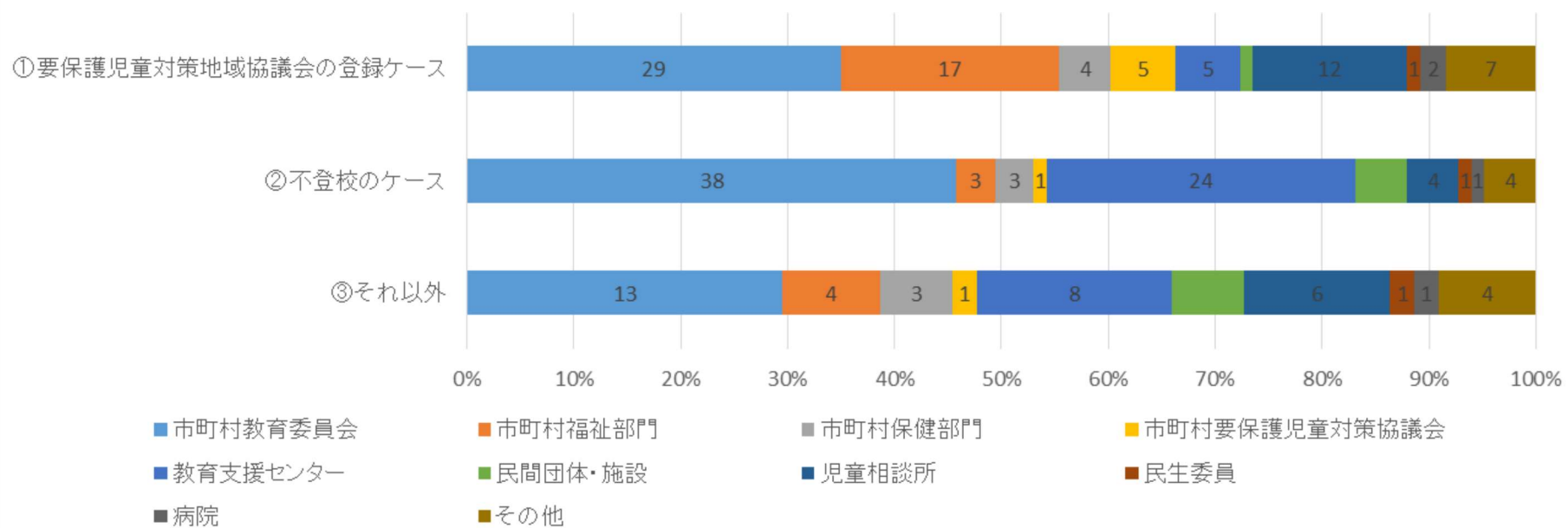
会議等の開催頻度



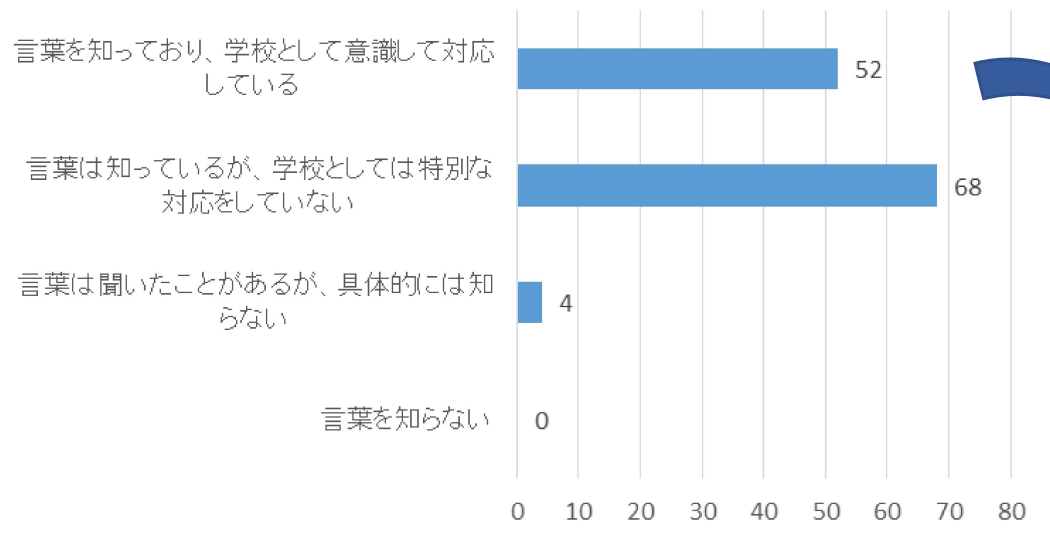
養護教諭が学級担任と共有しているケースで学校以外の関係機関との連携(n)



連携した関係機関(n)*複数回答

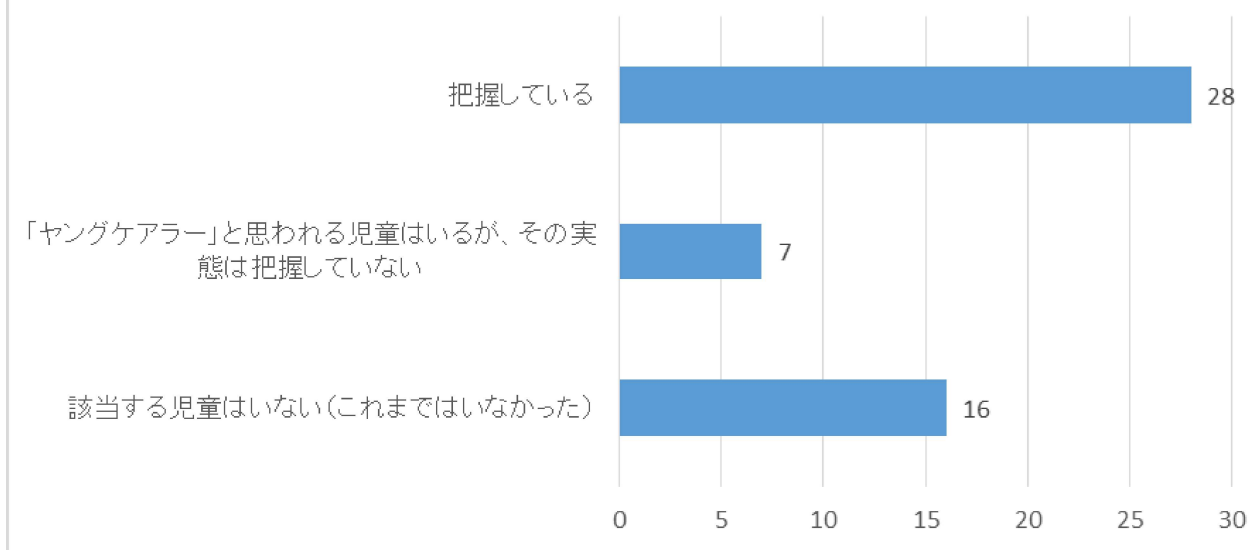


「ヤングケアラー」という概念を認識しているか(n)

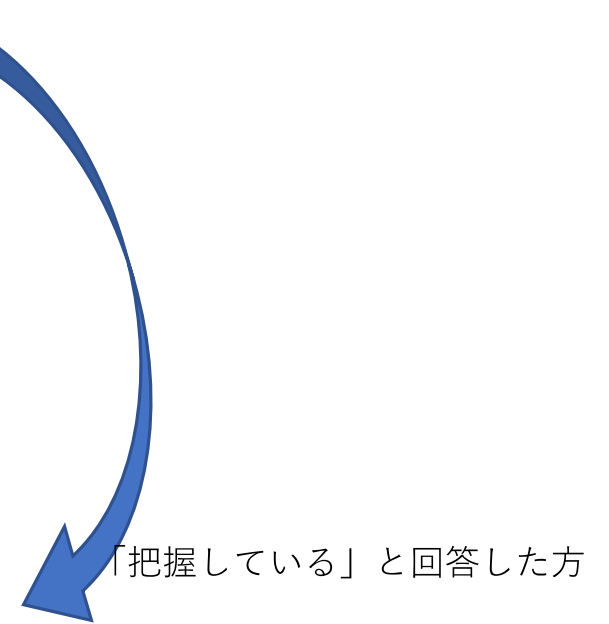
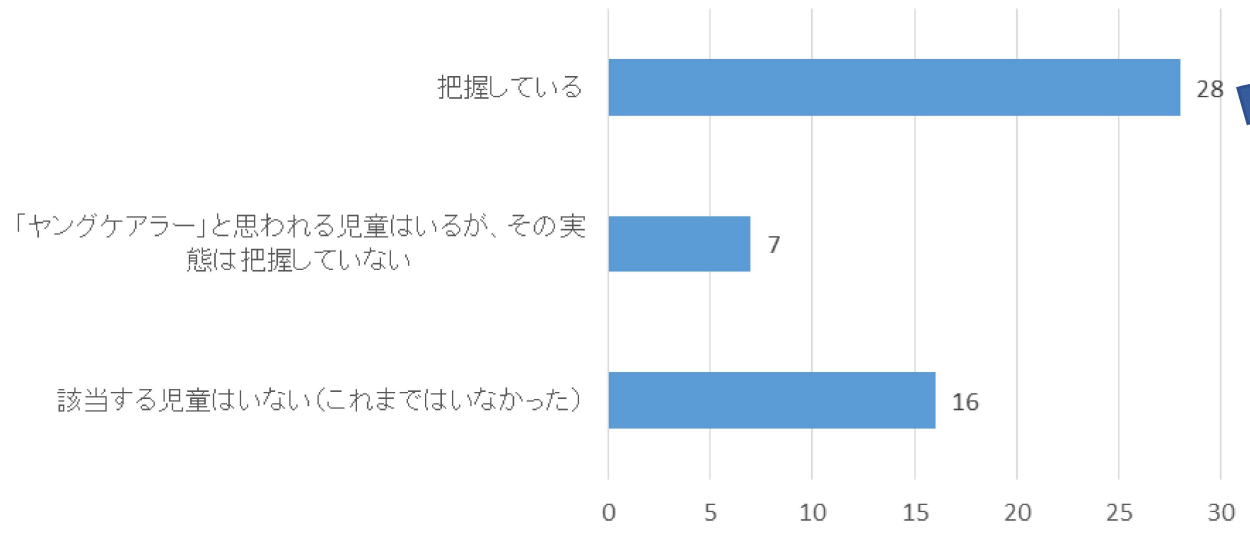


「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方

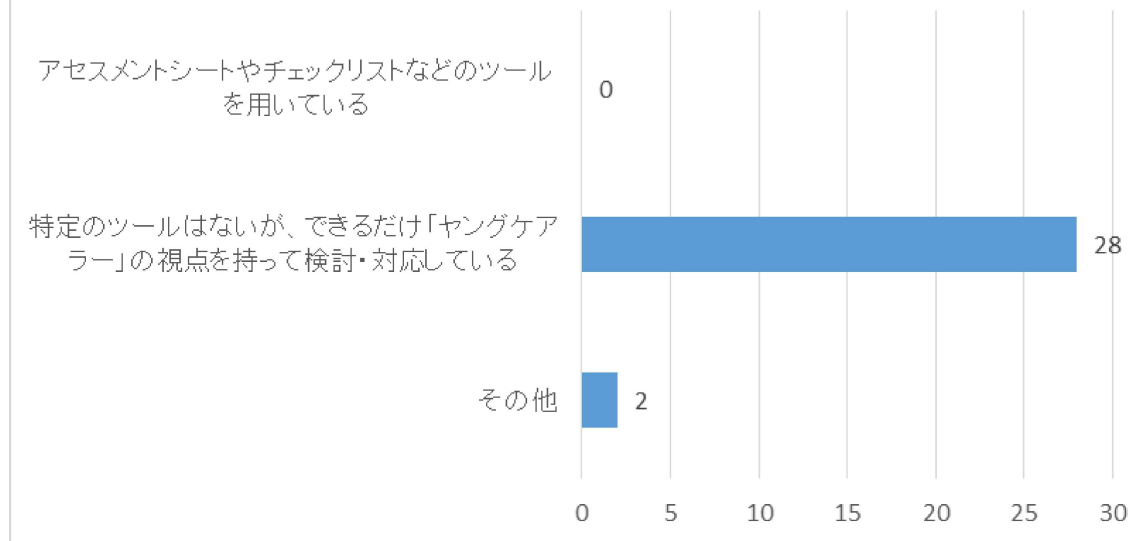
「ヤングケアラー」と思われる児童の実態把握(n)



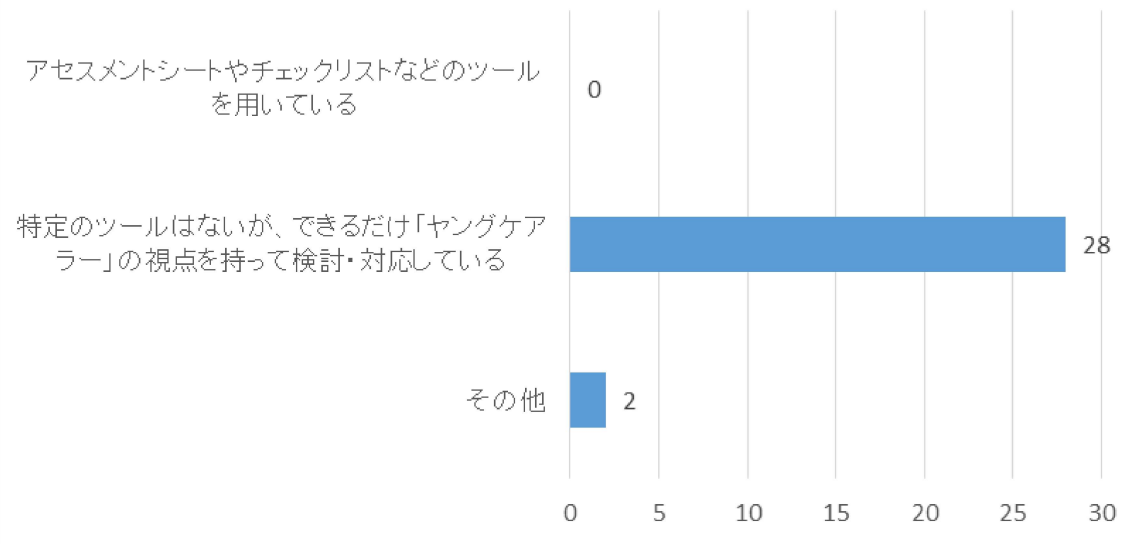
「ヤングケアラー」と思われる児童の実態把握(n)



「ヤングケアラー」の把握方法(n)

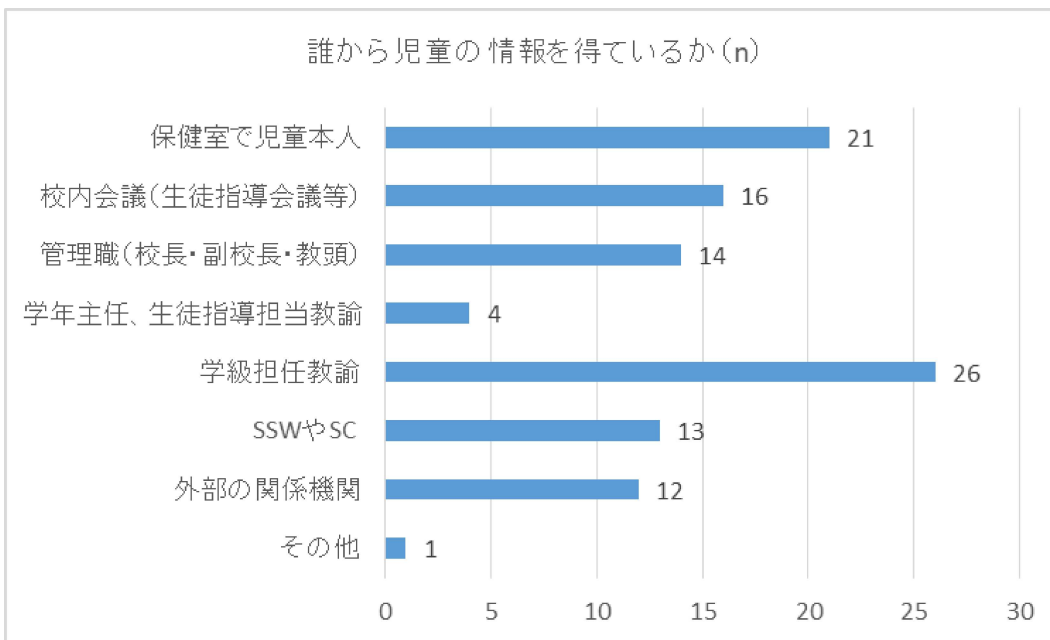


「ヤングケアラー」の把握方法(n)

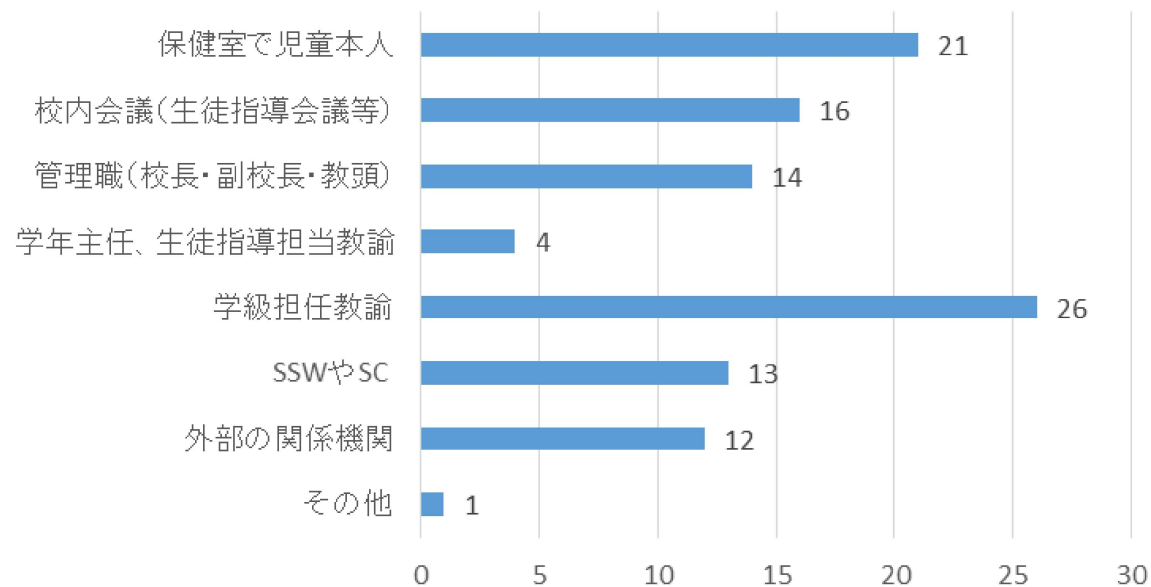


特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応していると回答している方

誰から児童の情報を得ているか(n)

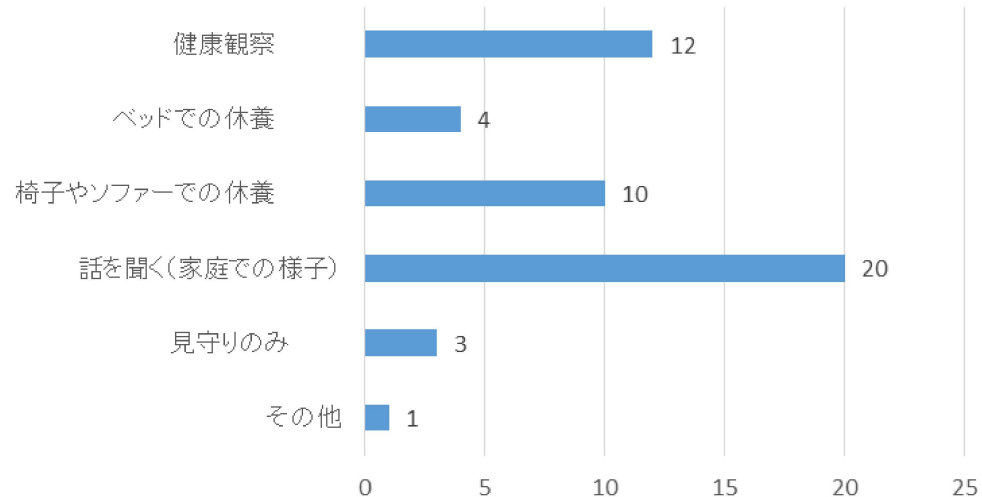


誰から児童の情報を得ているか(n)

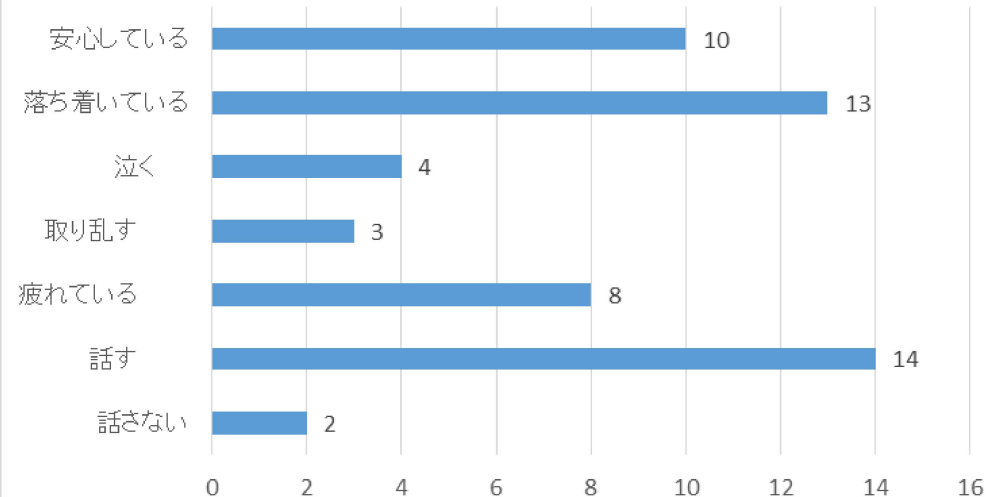


「保健室で児童本人」と回答した方

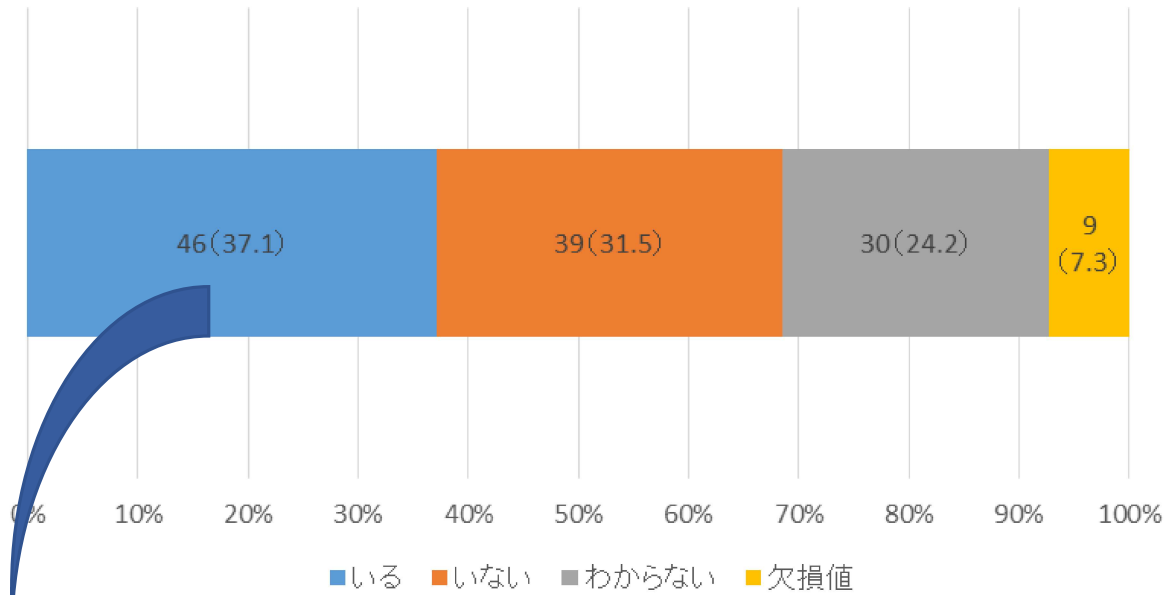
保健室に来室した当該児童への対応(n)



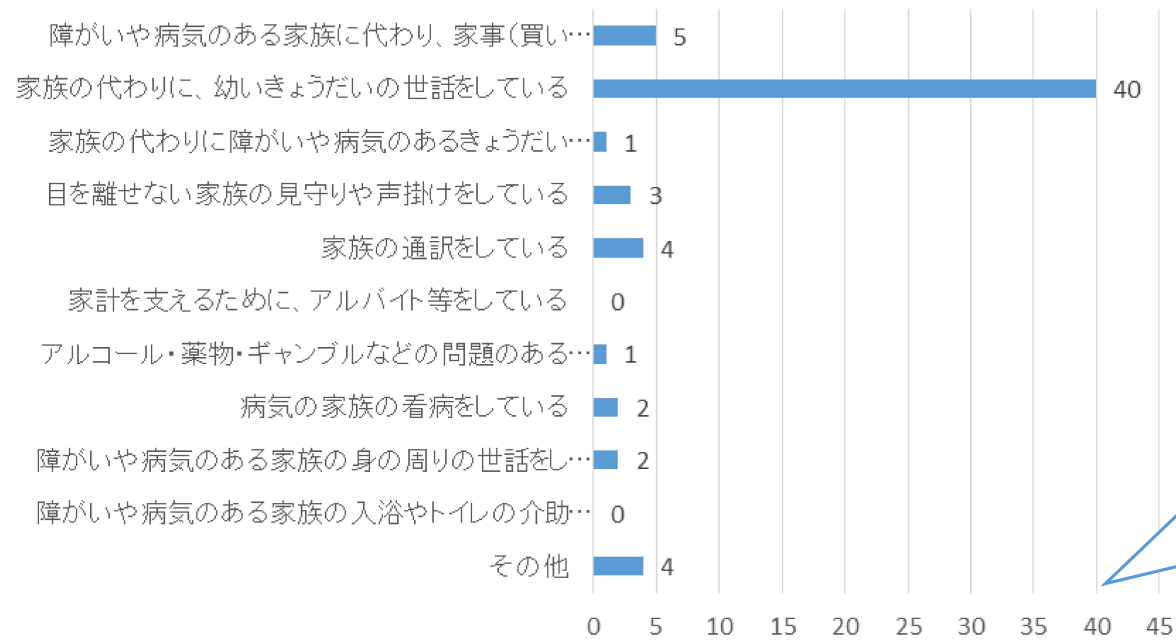
保健室での当該児童の様子(n)



「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる児童



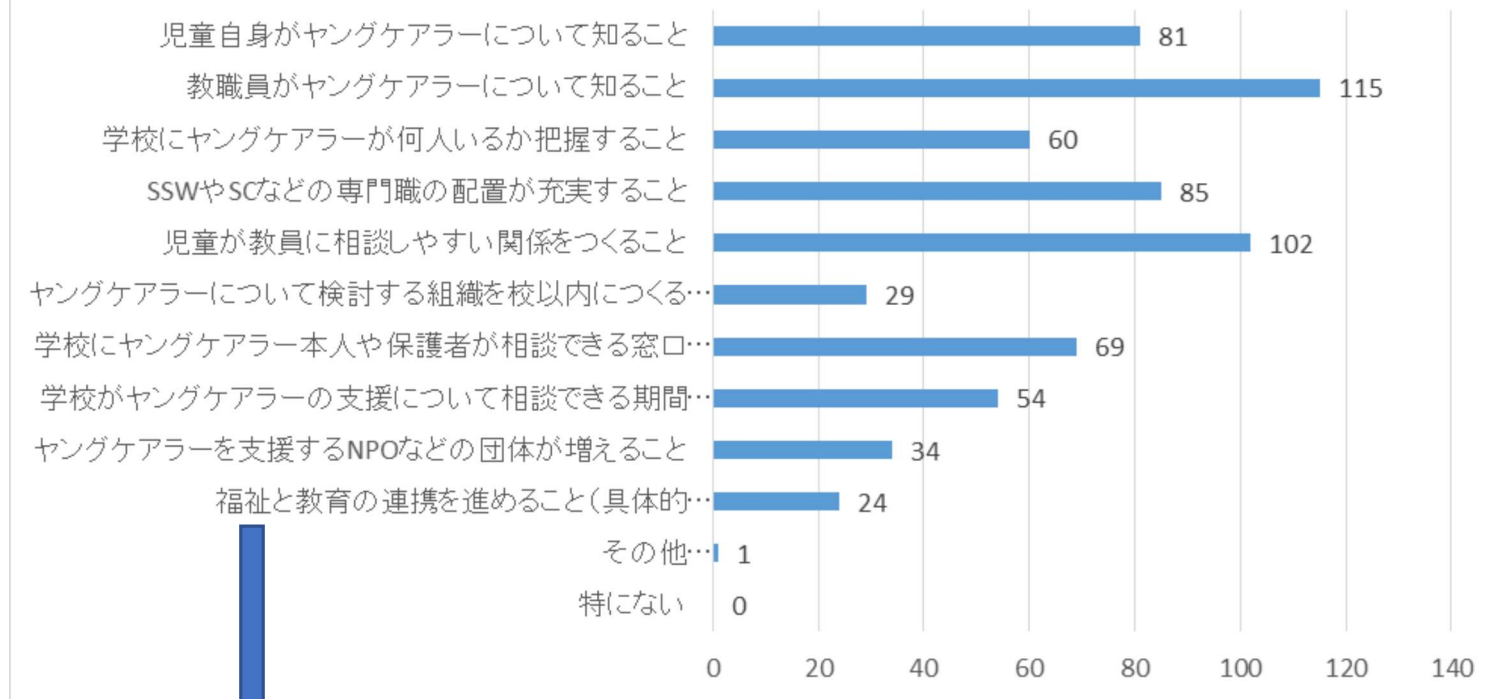
「ヤングケアラー」と思われる児童の状況(n)



【その他】

- 仕事をしている母に代わり、家事全般を兄弟と協力して担っている
- 親の病気を理由に欠席する（家事等をしているかは不明）
- 日常的に家事を担っている
- ネグレクト気味の保護者に代わり、家事を一部行っている。

「ヤングケアラー」の支援に必要な事(n)*複数回答



「福祉と教育の連携を進めること」(具体的に)の回答

- 情報共有と制度の提案
- どのようなサポート仕方があるのか知る
- 学校で把握し市町の保健課につなぐ
- 担当者会のような互いの顔が見える関係づくり
- 市町村で把握している情報に基づいて、可能性がある程度の場合も含めて、必要な情報を提供すること
- SCより質の高いSSWの増員(小学校では特に)
- 定期的な情報交換
- 両方で働く者の意識改革